

V 必要(い)るんです

1 病院や学校など公的施設の耐震化

現状と課題

緊急時に備えて、病院や学校など公的施設の耐震化が急務となっています。阪神・淡路大震災では、住宅等の倒壊で約9割の人が命を失っており、住宅・建築物の耐震化が被害軽減の上からも不可欠です。

政策と実績等

- 県耐震改修促進計画に基づく建築物耐震化のさらなる促進
- 防災ニューディールによる病院、学校など公的施設の耐震化を推進
 - ・ 県立学校の耐震化

年度	H22	H23	H24	H25	H27 (目標)
県立学校耐震化	1,029棟 (68%)	1,177棟 (78%)	1,268棟 (84%)	1,342棟 (88%)	1,468棟 (95%)

- ・ 県立病院の建替整備による耐震化
 - 光風病院（児童思春期病棟）（供用開始時期）▶▶▶ **H25年度**
 - 淡路医療センター（供用開始時期）▶▶▶ **H25年度**
 - 尼崎総合医療センター（仮称）▶▶▶ **H24年度工事着手**
- 私立学校の耐震化支援



- 尼崎総合医療センター（仮称）完成イメージ図



- 淡路医療センター



- 最新機器を備えた手術室



2 命を守る道路等、真に必要な社会基盤施設の整備



現状と課題

活力ある県土の発展には、地域の暮らしと交流を支える国道・県道の整備など生活関連社会基盤施設の整備、県土の骨格を形成し県全体の発展の基礎となる高速道六基幹軸の整備など基幹交通網整備を推進しなければなりません。

政策と実績等

● 計画的・効率的な老朽化対策の推進

- 主要な社会基盤施設について、今後10年間（H26～H35）の維持管理・更新計画である「ひょうごインフラ・メンテナンス10箇年計画」に基づき、計画的・効率的に老朽化対策を推進。

【対策目標】

- 損傷等があり、計画的な対策が必要な施設は、概ね10年以内に対策を完了
- 特に損傷等が著しく早期対策が必要な施設は、概ね3年以内に対策を完了

代表的な対象施設	施設総数	対策が必要な施設数	
		10年以内に対策完了	左のうち3年以内に対策完了
橋 梁	4,654橋	324橋	122橋
トンネル[覆工]	99箇所	66箇所	33箇所
岸壁等係留施設	420施設	21施設	6施設

● 緊急輸送道路等の危険箇所対策の実施

- 緊急輸送道路上や交通量の多い箇所など、社会的影響の大きい箇所（約450箇所）の防災対策を推進（H26～35年度）

● 通学路、生活道路などの整備推進

- 命を守る道路（ライフセーブ・ロード）の早期整備
- 生活交通バスへの支援

- 新名神高速道路、姫路鳥取線（播磨自動車道）、東播磨南北道路の整備推進、名神湾岸連絡線、大阪湾岸道路西伸部、播磨臨海地域道路の早期事業化
 - 新名神高速道路（神戸～高槻間供用（H28まで））▶▶▶**用地買収進捗率：99%（面積）[H26.3末]**・本線工事：全区間工事着手済
 - 姫路鳥取線（播磨自動車道）▶▶▶**設計協議完了、用地買収着手**
 - 東播磨道 ▶▶▶**八幡稻美ランプ～国道175号のH26年度事業着手**
 - 名神湾岸連絡線 ▶▶▶**計画段階評価の早期完了**
 - 大阪湾岸道路西伸部 ▶▶▶**早期事業化に向けた国への働きかけ**
 - 播磨臨海地域道路 ▶▶▶**計画段階評価着手に向けた国への働きかけ**

● 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道の整備促進

- 北近畿豊岡自動車道の整備促進 ▶▶▶**八鹿日高道路、豊岡南道路：早期供用に向けた事業促進、豊岡道路：早期事業化に向けた環境アセスメント・都市計画手続きの推進**
- 山陰近畿自動車道の整備促進 ▶▶▶**浜坂道路：H29年度供用に向け事業推進**

● H26年度からの公平で利用しやすい高速道路料金の実現

- 本州四国連絡道路 ▶▶▶**NEXCOとの料金割引格差の解消に向けた国への働きかけ**
- NEXCO・阪神高速道路等 ▶▶▶**H29年度からの地方の意見を踏まえた新料金体系導入に向けた国への働きかけ**

● 駅舎のバリアフリー化

- 1日の乗降者数5,000人以上の鉄道駅舎

年 度	H23	H24	H25	H26（目標）
バリアフリー化率	169駅（96.6%）	169駅（96.6%）	170駅（97.1%（見込））	170駅

- 1日の乗降者数5,000人未満の鉄道駅舎 ▶▶▶**H22年度：制度創設、2駅に補助、H23年度：2駅に補助、H24年度：3駅に補助、H25年度：4駅に補助**

● JR 山陰本線・播但線輸送改善事業の推進

- JR山陰本線・播但線輸送改善事業は、H25年度で完了（終了）
- 速達性の向上（駅部クランクの改良）▶▶▶**H25年度完了**
- 乗車時間の短縮：特急列車はまかぜ大阪～浜坂間 ▶▶▶**12分短縮（H25年度）**

● 山陰近畿余部道路



● 命を守る道路整備



● 北近畿豊岡自動車道八鹿・氷ノ山 IC



● 東播磨道



3 災害被害を最小化する 地域防災力の向上



現状と課題

自然災害が多発する中で、被害の最小化に向けた取り組みが大切です。ハード・ソフト両面からの防災・減災対策が必須なのです。



政策と実績等

- 災害時要援護者を支援する防災・減災対策の充実（治療薬常用者へのケアの充実、高齢者・障がい者らの緊急避難体制の整備）

- 聴覚障がい者災害等緊急時情報発信システムへの登録

年度	H23	H24	H25	H26 (目標)
登録者数	1,628人	1,800人	2,086人	2,200人

- 災害時に孤立する可能性のある集落への防災対策

▶▶▶ 全集落で適切な通信・連絡手段の確保

- 衛星携帯電話・発電機等整備による通信手段の確保80集落（H23まで）
- 臨時ヘリポート（ホイスト可能地点を含む）の整備70集落（H23まで）

- 市町防災計画づくりへの支援と統一フォーマットづくり

▶▶▶ 地震被害想定算出基礎資料の提供

- 淡路島地震の被害状況調査（自民党県議団）



- 山地防災・土砂災害対策の計画的な推進

- 山地防災・土砂災害対策緊急5箇年計画

	H21~22	H23	H24~25	H26~30	合計	
治山ダム・砂防えん堤の重点整備	417	197	310			
治山事業	台風第9号被災溪流対策	98	40	—	—	138
	流木・土砂流出防止対策	60	28	48	130	266
	人家保全対策	160	80	248	350	838
	計	318	148	296	480	1,242
砂防事業	台風第9号被災溪流対策	20	0	—	0	20
	流木・土砂流出防止対策	26	0	5	0	31
	災害時要援護者関連施設保全対策	8	31	61	0	100
	人家等保全対策	45	18	38	200	301
計	99	49	104	200	452	
災害に強い森づくり	40	60	55	88	243	
流木・土砂流出防止対策	40	60	55	88	243	

- 警戒、避難活動に役立つ危険情報の提供仕組みづくり

- フェニックス防災システムの改修による初動対応力の強化

▶▶▶ 24年3月30日より運用開始

- CGハザードマップの更なる充実

▶▶▶ 23年4月より新システムで運用開始

- 直接緊急情報を発信する「ひょうご防災ネット」と5言語の「ひょうごEネット」への登録（毎年度新規登録4万件以上確保）

年度	H23	H24	H25	H26 (目標)
新規登録件数	145,900件	109,000件	132,500件	40,000件

- 「県住宅再建共済制度」と震災の教訓、経験を活かす仕組みの充実

- 15%の加入率をめざした兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）への加入を促進

- 住宅再建共済制度の全国制度としての創設に向けた関係省庁等への提案等を実施